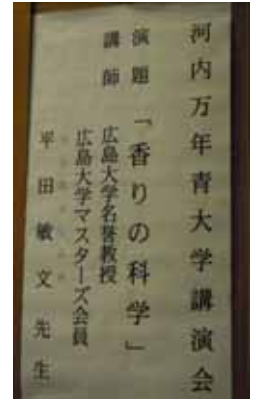


## 出前講座「香りの科学」を終えて

広島大学マスタース会員 平田敏文

河内地域センターの主催講座「万年青大学」より講師の依頼があり、9月30日に出前講座に出かけた。「万年青大学」(柏本雄幸学長(元 広島女学院大学文学部教授))は、もう50年以上も前から続いている組織(河内地域に居住の60歳以上の人が会員(学修生)となれる)で、毎月1回は様々な“学修会”を開催しているそうである。

出前講座を引き受ける際に、「学修生は高齢者なので、分かりやすい内容で、またゆっくりと話してほしい」との要望があったので、なるべく「化学色」は出さないこととし、また、「バラ」、「ジャスミン」、「乳香」の精油を口紙にしみ込ませた試料を全員に配布して、香りを楽しみながら話を聞いて戴くことにした。しかし、参加者が予想外に多く(61名)、用意した香りの試料は半数の人にしか、ゆきわたらないことになってしまった。



講演では、以下の「香りの文化」と「香りの科学」に分けて話した。

(A) 香りの文化 人々は香りとどのようにかかわってきたか？

- ・ギリシャ神話に出てくる香り バラ、ハッカなど
- ・古代エジプトの香りの史跡を訪ねて 乳香、没薬
- ・日本の古代史に出てくる香り 竜腦、蘭奢待
- ・万葉集や古今和歌集で詠まれている香り 梅、橘など

(B) 香りの科学 生き物にとって香りとは？

- ・香りの三大女神 バラ、ジャスミン、ネロリ
- ・マッタケやバニラの香りの化学成分
- ・カラシやワサビ なぜ辛い(刺激臭)のか？
- ・香りの芸術“香水”について
- ・サケの母川回帰と香り
- ・モンシロチョウはなぜキャベツを好んで産卵するのか？ カラシ油配糖体
- ・香りを認識する器官 人間とネズミのどちらが優れているか？



「香りの文化」のところをゆっくりと話し過ぎたせいで、後半の「香りの科学」のところでは時間が足らなくなって一部を省略する羽目となり、また、質問の時間も持たなくなってしまった。このような状態であったが、最後まで熱心に聞いていただき、「万年青大学」の学修生の皆様の知識欲の旺盛さに感心するとともに、元気を戴いた。